

平成 29 年度第 1 回(第 35 期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 平成 29 年 6 月 8 日 (木) 午後 2 時から午後 4 時
- 2 開催場所 浜松市役所本館 8 階 第 3 委員会室
- 3 出席状況
- | | |
|------|---|
| 委員 | 籠幾緒委員、西岡祥一委員、原田哲良委員、
黒柳敏江委員、河合亮子委員、伊藤豪委員、
大塚幸子委員、鈴木一夫委員、野中正子委員、
守屋明美委員 |
| 事務局 | 花井教育長 (途中退席)、岡安市民協働・地域政策課長、
藤田生涯学習担当課長、飯田生涯学習推進グループ長、
池内指導主事、山内指導主事 |
| 欠席委員 | なし |
- 4 傍聴者 2 人 (一般 : 1 人、記者 : 1 人)
- 5 議事内容
- 1 正・副委員長の選出
 - 2 平成 29 年度浜松市社会教育主要事業等
 - 3 第 35 期浜松市社会教育委員会の活動
 - 4 浜松市の生涯学習の基本方向
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ 山内 剛治
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無
- 8 会議記録

- | |
|---|
| 1 開会
2 委員委嘱
3 教育長あいさつ
4 職員紹介
5 議事
(1) 正・副委員長の選出
<input checked="" type="checkbox"/> 事務局から、資料 1 に基づき、社会教育委員の設置根拠等を説明
<input checked="" type="checkbox"/> 選出 |
|---|

(事務局)

正・副委員長については、「浜松市社会教育委員条例施行規則」第3条に「委員会に委員長及び副委員長をそれぞれ1人置く」とあり、同第2項に「委員長及び副委員長は、委員の互選により定める」となっている。この規定に従い選出していきたい。

(大塚幸子委員)

委員長は、第34期浜松市社会教育委員委員長を務められ、学識経験者として、幅広い見識をおもちである籠委員に、引き続きお願いしたい。

(事務局)

他の委員の皆様はいかがか。

(他の委員)

(拍手) 異議なし。

(事務局)

籠委員、いかがか。

(籠幾緒委員)

《承諾》

(事務局)

副委員長についても、「互選により定める」となっている。いかがか。

(籠幾緒委員長)

前期第34期からの継続委員であり、また、元小学校教員で、旧引佐町教育委員会の社会教育課長をお務めになるなど、社会教育や学校教育について豊富な経験をおもちである西岡委員に、お願いをしたい。

(事務局)

他の委員の皆様はいかがか。

(他の委員)

(拍手) 異議なし。

(事務局)

西岡委員、いかがか。

(西岡祥一委員)

《承諾》

(2) 平成29年度の主要事業等

■事務局から、資料2に基づき、平成29年度 of 社会教育関係行政組織について説明

■事務局から、資料3に基づき、社会教育関係予算及び主要事業の概要について説明

(3) 第35期浜松市社会教育委員会

■事務局から、資料4に基づき、第35期の活動内容等、及び、平成29年度スケジュールについて説明

(4) 浜松市の生涯学習の基本方向

■事務局から、浜松市生涯学習推進大綱、資料5に基づき、浜松市の生涯学習の基本方向について説明

(西岡祥一副委員長)

(生涯学習の事業に) たくさんの人に参加していただきたいが、まずは自分から講座に参加することが大切だと考え、6月に4回講座に参加する予定である。そうしたところに出かけ、また新しい自分を見つけていくことができればと思う。

現在は、引佐町の協働センターにおいて、子育て広場の事業に関わっており、今年で7年目になる。子供たちと一緒に活動をしているが、お母さん方もそこに来ることで、仲間ができ、互いに悩みを打ち明け合い、解決の糸口を見つけている姿が見受けられる。いろいろな人が、様々な場に参加していけるような機会の情報を広く周知していくことが大切だと考えている。

(大塚幸子委員)

地域で、子供から大人まで関わるボランティア活動をしている。子ども講座については、今年度も子供たちがとてもたくさん参加してくれて、保護者の方々にも喜ばれている。やはり、子供たちは「地域の子供」として地域で見守っていきたいし、大人も地域社会の一員として地域の活動に参加してほしいと願いながら、日々活動をしている。

(鈴木一夫委員)

特別養護老人ホームを営んでいる。また、音楽の楽団を作っており、いろいろなところで頼まれて、10か所程の協働センターを回っている。

現在、多くの老人クラブ(シニアクラブ)がなくなりそうな危機にある。役員のなり手がいないため、80代の方が多い。国や市の方向性として、各地域や各地区ごとに頑張ってもらいたいという傾向がある。町ごとにどういう取り組みを行うかでお年寄りの幸せ度が変わってくる。(自分の地域でも)老人会をなくしてはいけないということで、老人会を立て直す動きを2年間かけて進めてきた。メンバーや役員が若返ったり、様々な企画が生まれたりし、老人会が変化したことで、町が変わりつつあることを実感している。

(野中正子委員)

消費者グループ連絡会代表として、フェアトレードに係る活動をしている。「くらしのアイデアフェア in 浜北」は、今年で11回目を迎える。区内の小中学校を全て回り、環境に関する標語やポスターの募集依頼をするとともに、自分たちで苦労して資金を作り、表彰式を行っている。また、万葉食研究会にも携わっており、地産地消や地場産業に係る講座を行っている。

どの事業も、かなり大変な思いをして、自分たちで企画や募集をしている。そうした中において、各種団体や行政、大学等が協力・連携を取ってやっていただけたらとても嬉しく思う。こうした、各機関や部署の連携についても、今回の中で今後議論していけたらよいと思う。

(守屋明美委員)

「浜松市と大学等との連携事業」が、北遠(天竜区)でも開設されることを聞き、嬉しく思う。前回の会の際に、要望を出してよかったと思う。とても楽しみにしている。

現在、栄養士としては、健康相談や子供たち対象の「わいわい講座」に取り組んでいる。また、普段は、障がい者の支援施設で勤務しており、その施設において、土曜学習等で小学生の陶芸体験を開催している。

(事務局)

浜松市と大学との連携事業については、前年度の社会教育委員会でもいただいたご意見を受け、山間部でも取り組んでいただけるよう、各区や各施設に意識的に働き

かけをしている。天竜区等の山間部の施設でも、協力してもらえる方向で話が進んでいる。

(原田哲良委員)

4月に開校した浜松中部学園の校長をしている。小学校1年生から中学校3年生までと一緒に生活している。今はだいぶ慣れてきて、年齢の大きい子供たちをモデルにして小さい子供たちは日々成長している。

浜松市と大学との連携事業という、大学生による講座がこれほどたくさんあることを初めて知った。学校にもぜひ取り入れていきたいが、学校現場は日々大量の配付物が届くため、(今日の資料のように)一覧にしたものを配布していただくとよい。そうすると、子供たちも一覧の中から選んで行ってみようかなという気持ちになるのではないかと。そして、この事業のように、浜松市にはよい取り組みがたくさんあるが、それをもっと広く知らせる方法がないものかと思う。また、子供たちは、生き物を育てる、ものを作るということに大変関心が高い。浜松は「ものづくりのまち」と言われるが、そうしたことを引き継いでいくためには、そうした(浜松の特色を生かした)講座があってもよいと思う。

(事務局)

創造都市・文化振興課では、大学との連携事業等の様々な課外講座や課外学習を所管している。現在、学校と地域との連携が進められているが、地域の力を学校の中に取り込むだけでなく、ぜひ、学校の子供たちや保護者に積極的に地域に出てきていただくとありがたい。若い頃から地域と触れ合い、地域での活動に参加することで、将来全国や世界に羽ばたいていっても、いずれ浜松へ戻り、地域活動に参画していただけないかと考えている。学校と地域が連携していく中、子供たちが地域活動に参画する機会を、いろいろな形で考えていく必要がある。

(原田哲良委員)

子供たちは、地域活動の全部に参加することは難しいし、また、全ての活動を周知することは難しい。そのため、近くにこういう活動があるという情報を、ある程度まとめた形で、掲示コーナー等で紹介できるとよいと思う。

(大塚幸子委員)

自分の地域では、地区社協(社会福祉協議会)の活動が盛んである。その活動の中には、子供が関わる活動がたくさんあり、学校に協力をお願いすることも多くある。校長先生を始め、小中学校の先生方はとても忙しい中であるにもかかわらず、社協の活動に関わっていただいていることに大変感謝している。地域の核となる場所としては、協働センターもそうだが、学校もそうである。自分の地域では、自らの町の学校を誇りに思っている方が多い。以前、地域の方々に、「どこに住みたいか」というアンケートを実施したところ、「自分の町に住みたい」という回答がおよそ80%もあった。潜在的には、何らかの形で地域活動に参加したいという気持ちを多くの人たちが持っていることを強く感じた。その気持ちを行動へとつなげ、より多くの人たちが、様々な地域活動に参加していただくと、地域の活性化を一層推し進めることにつながるのではないかと。思う。

(黒柳敏江委員)

保護者代表として、PTA連絡協議会からこの会に参加している。保護者の立場で見ていると、小学校と中学校では大きく環境が違うことが分かる。中学生は、部活動が生活の主軸となることが多く、土日にも活動があるため、地域に関わりたくても関われないというのが現状である。一方、小学生は好奇心が旺盛である。浜松市と大学との連携事業には、行かせてあげたいと思える講座がたくさんある。

また、現在、浜松市内の小中学校でコミュニティスクールを進めているということで、学校においても、地域の協力や支援がますます重要になってくる。三方原地区は、かつて開拓をして切り拓いた地域として有名だが、実際に開拓に携わり、その話をすることのできる年齢の方が少なくなっている。こうした歴史や伝統文化をどのようにして残していくべきかということも、地域の方々と一緒に考えたり、協力したりして進めていきたいと考えている。子供たちがまずは身近な地域を見つめて、そこから市全体に視野を広げていけるとよい。将来子供たちが生まれた土地に帰ってくるためには、地域のよさ、浜松のすばらしさを、小さい頃から伝えていくこと大切であると思う。そして、そういったことに、生涯学習をぜひ活用できたらと思う。

(河合亮子委員)

ボランティアとして、地域に密着し、現役で活動している。読み聞かせは、小学校で20年、中学校で15年続けている。生涯学習ボランティア東部メニーフレンズは、東部中学校の生徒20人、卒業生10数人、卒業し社会人になってから参加した方等を含めて、現在50人位の会員がおり、今年で20年目になる。活動は、東部協働センターを軸に、月に一度の定例会で子供たちとどんなボランティアをしたいかを相談し、協働センターの草取りなどのボランティア講座を開いている。現在一番力を入れて進めている活動は、8月に開催する「チャイルドフェスタ」に向けての準備である。「チャイルドフェスタ」とは、子供のための夏祭りで、中学生が主体となって夏祭りを運営する、協働センターまつりの子供版のような活動である。東部中学校の生徒たちが、企画を立て、大人が補助するという形で取り組んでいる。

また、現在丸塚中学校の図書館補助員をしている。中学生は、自分から進んでやる子は少ないが、少しフォローしてあげると、本当によく動いてくれる。怒らず、褒めてあげることが大事だと思っている。

(伊藤豪委員)

毎日新聞に、長年介護施設で働き、自立して生活してきた77歳の女性の記事が載っていた。高齢になり体力が追いつかないために仕事を辞めざるを得ないが、国民年金だけで生活できていくのか心配という内容であった。一方、大卒の女性の2割が定職に就いておらず、家事手伝いとなっている。女性が40歳、50歳になったとき、女性の母親が「この子はこれからどうなるのか」と相談に来るそうだが、この記事の77歳の女性もその一人だという。こうした事態になることは、容易に予想することができたのではないかと思う。先程、「担い手がない」「働き手がない」という話があったが、本来働き手になるべき人が働き手になっていないという状況が、社会の大きな問題となっている。生涯学習の中で、そうした問題を解決するための働きかけができないだろうかと感じる。また、「こうしたらこうなる」「この後こうなる」という予想ができない、予想しようともしない子供たちが増えていくが、こういう状況を何とかできないかと思う。少なくとも、自分一人で自分の生活を支える力を付けていかないと、社会全体が弱体化していつてしまう。以上のような状況が、今感じる一番大きな課題であると考えている。

(籠幾緒委員長)

浜松に来てから40年になる。浜松学院大学で教員をやってきた。若い頃は、自分の研究に専念させてもらえるなど、恵まれた環境であったと感じている。浜松市と大学との連携事業は、慎重に進めていかななくてはならないと思う。事業への参加が、大学の若い教員の無理やりのノルマのようなことになってしまうといけな。ある程度の年齢になった教員で、社会的なコンタクトを取る必要が出てきた人が、

そうしたつながりを作るという意味ではよい事業であると言える。若い教員については、事業に参加することが、自らの研究テーマや実績につながる場合は、自主的に参加していくことが望まれる。自分の場合は、教授になってから、「市民大学」の講師として参加し、当時の社会教育課と一緒に取り組んだ経験がある。

浜松に来てからは、引佐町→浜松市中心部→合併後の引佐町というように移り住んだ。その中において、地域性の違いというものを非常に感じた。浜松市中心部にいた頃は、地域のつながりといえば、ほとんどが子供を通じてのものであった。一方、引佐町では、伝統的に、地域と学校とのつながりが強い。また、合併後の引佐町に戻ってからは、地域とのつながりの大切さを以前よりも強く感じるようになっている。

6 連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・平成 29 年度指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会（7 月 6～7 日）
- ・一般社団法人全国社会教育委員連合への加入
- ・静岡県公民館連絡協議会への加入
- ・次回開催予定 第 2 回：8 月 4 日（金）14 時～

7 閉会

9 会議録署名人 なし